

— 日本雪氷学会北海道支部 —
 (学芸工芸部) 昭和59年度研究発表会講演要旨

日時 : 昭和59年 6月11日(月)
 場所 : 北大百年記念会館・大会議室

プログラム

10:40~12:00 座長 高橋 庸哉

1. 屋上積雪形状について 26
 — 屋根面の途中で勾配が変化している場合 —
 苫米地 司、遠藤 明久、橋本 健一(北海道工大)
2. 屋根形状係数(日本建築学会「建築物設計用雪荷重」案)
 の制定をめぐる問題点 27
 遠藤 明久(北海道工大)
3. 斜面積雪におけるクラックの発生と応力集中 28
 遠藤 八十一、秋田谷 英次(北大低温研)
4. 今冬期のオホーツク海の海水状況 29
 麻生 正(札幌管区气象台)

13:10~14:30 座長 小林 大二

5. 離島の森林の機能—とくに融雪を遅らせる水源林としての機能について . . . 30
 斎藤 新一郎(道立林業試験場)
6. 厳冬期の浅層地下水位変化 31
 北原 曜、真島 征夫、清水 晃(林業試験場北海道支場)
7. 台地と谷すじの放射冷却の比較 32
 田中 夕美子、藤原 晃一郎(北大農学部)、小林 大二(北大低温研)
8. 気温と日射を用いた冬期の浅層地温の予測 33
 佐藤 篤司(北大低温研)、J. M. CAPRIO(モンタナ州立大学)